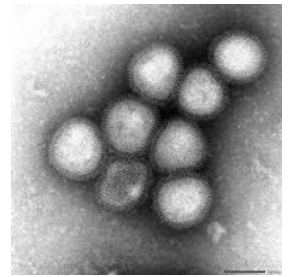


～「インフルエンザ」について～

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症です。風邪に比べて症状が重く、乳幼児や高齢者では重症化することもあります。感染すると、1～3日の潜伏期間を経て、38℃以上の発熱、せき、悪寒、のどの痛み、関節痛、全身倦怠感、頭痛などの症状があらわれるのが特徴です。



インフルエンザA(H7N9)

●2022年～2023年のインフルエンザ流行予想



冬季のインフルエンザ流行の予測をするうえで、南半球の状況は参考になります。2020年および2021年は、日本同様、インフルエンザ患者は極めて少数でした。しかし、2022年は4月後半から報告数が増加し、例年を超えるレベルの患者数となっています。今後、海外からの入国が緩和され人的交流が増加すれば、国内へウイルスも持ち込まれると考えられ、今秋から冬には、同様の流行が起こる可能性があります。

また、過去2年間、流行がなかったために、社会

全体のインフルエンザに対する集団免疫が低下していると考えられます。そのため、一旦感染が起こると特に小児を中心に社会全体として大きな流行となる恐れがあります。

2021-2022年、欧米や中国ではインフルエンザウイルスのタイプのうち、主としてA香港型と呼ばれるウイルスが増加しています。また、オーストラリアで検出されたインフルエンザウイルスの型が判明したもののうち約80%がA香港型でした。そのため、今シーズンは、わが国でもA香港型の流行が主体となる可能性があります。**A香港型が流行すると、インフルエンザによる死亡や入院が増加することが知られているので、特に警戒が必要となります。**

●インフルエンザとコロナは同時に感染するのか？

過去にアメリカやイギリス、中国では、新型コロナウイルスとインフルエンザに同時感染したケースが報告されています。もし、同時感染すると、より重症化する可能性があると考えられます。イギリスの研究では、同時感染した患者は新型コロナウイルスにだけに感染した患者に比べて死亡するリスクが2倍で、集中治療室で治療を受ける割合が高く、人工呼吸器を必要とする患者も多く、中国やイランの研究でも、同じような結果が出ています。

同時感染すると炎症反応が悪化したり、また高齢者や肥満の人、がんや肺の疾患などの健康上の問題を抱えている人ほど、リスクは増大すると考えられます。

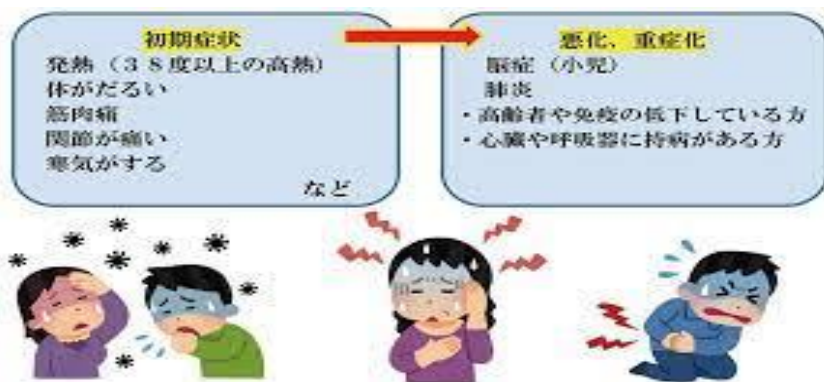


●インフルエンザとコロナの違い

	新型コロナ	インフルエンザ
感染経路	飛沫、接触、空気	飛沫、接触、空気
症状の持続期間	2～3週間	3～7日間
致死率	0.25～3%	0.1%
潜伏期間	2～14日(平均5日)	1～4日(平均2日)
症状	発熱、咳、のどの痛み、倦怠感、頭痛、息切れ、味覚障害、嗅覚障害 など	発熱、咳、のどの痛み、倦怠感、頭痛、鼻水、関節痛、下痢(子供に多い) など

●インフルエンザを予防するには？

- ①外出先からの帰宅時や食事前など石けんでこまめに手洗い、うがいをする。
- ②十分な睡眠とバランスの良い食事をとり、免疫力を高める。
- ③発病の可能性を減らし、重症化を防ぐためにワクチンを接種する。
- ④加湿器などを使い、適切な湿度(50～60%)を保つようにする。
- ⑤不要不急の外出を避ける。外出する際は、マスクを着用する。



ワクチンの接種回数は、基本的に13歳以上の場合は1回ですが、体質などによって、医師が必要と判断した場合は2回接種する場合があります。13歳未満の場合は2回接種します。この場合、接種間隔は免疫力の働きを高めるため2～4週間の間隔を空ける必要があります。原則として新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンの同時接種はできません。

インフルエンザの予防接種は、新型コロナワクチンを接種してから2週間以上空けてから接種するようにしましょう。

